

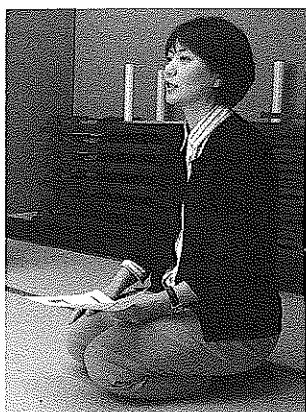
Hand Hand

地産地消を楽しみながら実践 ～「西院」の小さな菜園から大きな人の輪をつくろう～

嵐電の西大路三条駅のすぐ近くにある高齢者福祉施設「西院」。玄関の前まで行けば、中で行われているレクリエーションの楽しい雰囲気が伝わってきます。今回は、この施設の2階にある菜園に注目し、楽しみながら地産地消を実践する様子を伺いました。

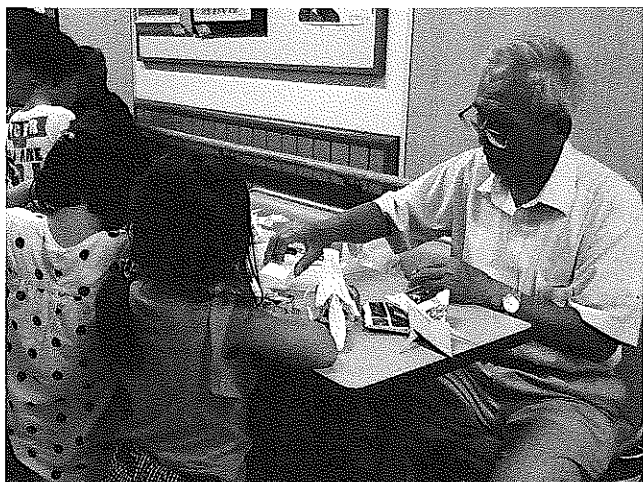
大切なものを大切にままに

「人に歴史ありと言いますが、私たちがお相手するのは、まさに人生の歴史を長く刻んでこられた方々なのです。」と、施設長の河本歩美さんは笑顔で施設運営に関する思いを語ってくださいました。この施設では、通所介護、居宅介護支援事業、小規模多機能型居宅介護など、さまざまな事業を展開しています。そして、これらの事業の思いは、一人ひとりを大切に、「前向きに自分らしく生きていく」を応援すること。そして、利用者さんが大切にしてくれたことを一緒に大切にしていこうということ。「利用者さんから教えてもらうこともたくさんあります！」と河本さん。



施設長の河本歩美さん

高齢者が活躍できる機会を作りたい



シニアボランティアさんから遊びを教わる子どもたち

利用者さんは、今までの歴史の中で培ってこられた経験から手先が器用な人、お話しが上手な人、料理が得意な人、皆さんそれぞれに得意なものを持っています。このような「得意」を活かして、活躍する場をつくること、これが何

よりも大事なことです。施設では、月1回多世代交流食堂（「おいでやす食堂」と呼んでいます）を実施しています。ここでは、利用者さんが提供する食事の下ごしらえをし、ボランティアの学生がシニアボランティアさんから料理を教わる機会もあるようです。また、子どもたちがシニアボランティアさんから昔の遊びを教わりながら楽しむこともあります。

小さな菜園から大きな人の輪をつくろう

施設の2階には100㎡程度の庭があります。そこには底上げされた花壇がいくつかあり、地域の方や大学生らが利用者さんと一緒に野菜を育てています。今年は、この菜園の土に落ち葉コンポスト（醍醐寺の落ち葉から作ったたい肥）を使って、ホウレンソウやジャガイモを育てました。これまでに経験したことのない異常な豪雨と高温でどうなることかと心配でしたが、立派な野菜を収穫することができました。利用者さんの中には、土を触って昔を懐かしみ、大学生との会話を楽しむ姿もありました。

地産地消とは、地域で生産された様々な生産物や資源をその地域で消費すること。輸送の際にかかるエネルギー・CO₂排出量等を削減できることからエコ活動として注目されています。このように施設で育てた野菜を施設で食べることは、いわば究極の地産地消ではないでしょうか。環境にも配慮し、人の輪もつながっていく。小さな菜園には皆の笑顔が広がっていました。



地元の学生とジャガイモの収穫を楽しむ利用者さん

高野拓樹（平成30年8月8日取材）